

2018年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
02010101

1. 計画名称

茅野市こども・家庭応援計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	各施策について、おおむね順調に進んでいる。「たくましく・やさしい・夢のある子ども」に育つ事を願って、地域の子どもは地域で育てるを合言葉にどんぐりネットワーク茅野等市民の皆さんと課題解決に向けた議論や取組を実施しながら各施策を推進していく。
今後の重点化施策番号	8	説明	次世代を担う子どもたちの「生きる力」を育み、「生涯を通じて学び続け、未来を切り拓く、心豊かなひと育ち」を推進するために、地域の子どもは地域で育てる理念のもと、地域のみなさんが子育てに関わる仕組みづくりの取組を進めていく。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実	おおむね順調	講座に参加することで、親同士が仲良くなり友達関係が広がり、親としての視野も広がっている。また、情報共有の場ともなっている。親が子供の成長を感じることができることにより、子育てが楽しいものと思えることができる。	講座への興味をどうやってもってもらえるか。周知の仕方を考えていく。	4ヶ月・10か月健診に出向き健診を待っている親一人一人に家庭教育センターで行っている講座の説明をしていく。広報ちのやホームページを活用し周知する。
2	乳幼児期の保育・教育の充実	おおむね順調	就労等で家庭で保育できない就学前の児童を公立保育園、私立保育園、認定こども園、私立幼稚園において、入所を希望するすべての児童を受け入れることができた。幼保小連携についても、小学校1年生での学校生活の満足度も概ね目標を達成している。	今後、幼児教育・保育無償化により、保育園、幼稚園に入所を希望することが予想されている。このことにより、保育園等で受け入れることが難しくなることが考えられる。	職員に対する適切な処遇改善を行い、職員が働き続ける環境を整え、保育士確保に努める。
3	学校教育の充実	おおむね順調	施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度、教職員の時間外勤務の減とも成果が表れている。 施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	子どもを取り巻く環境の変化により、様々な支援が必要な児童生徒が増えていて、指標の数字に表れない部分の対応が必要になってきている。それに合わせて教職員の負担も増えている。	社会で子どもを育てていく必要が大きくなってきていることから、コミュニティスクールの充実が不可欠である。
4	体験機会の充実	おおむね順調	リーダースクラブの会員及びモデル事業を実施した単位子ども会育成会の子どもは、自らの行事の企画・運営できるようになってきている。	モデル事業や子ども会育成会の理念などが、地区・単位子ども会育成会に浸透しにくい。	引き続き、市子ども会育成会と地区・単位子ども会育成会との連携に向けて、研修会等を通じて理念やモデル事業等を紹介し育成会活動を支援する。またち一ぼの着ぐるみによるPRを進めていく。
5	多様な課題に対する取組の充実	やや遅れている	性教育講座については、ワークショップ形式の手法による講座を開催したところ。参加者から参考になったと好評であった。 人権教育は、いじめ防止の学習にもなっている。	性教育講座が人権を主とした研修となっているが、本事業の目的である「性被害防止」に重点を置いた内容にする必要がある。 人権教育の教材「あけぼの」使用を人権に関するものに限らず、学級活動・道徳・社会科・総合的な学習の時間等で扱うことが効果的か検討が必要。	性教育講座について、参加を増やすために研修内容をどんぐりネットワーク茅野等から意見聴取する。 人権教育にふれることは、心の教育として必要である。いじめ防止の教育にもつながることから、学校での取り上げ方に工夫をしていく。

※6つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	こども・家庭応援会議	全体を通じておおむね順調であるが、施策目標1-(5)-②多様な学びの場と機会の提供について、検討が進んでいないので改善を希望する。	多様な学びの場と機会の提供については、国・県・他市町村の施策を参考にしながら、学習支援等多様な学びの場と機会及び自立に向けた場や機会の提供等の具体的な取組について市民の皆さんと検討していきます。
開催回数	1		
参加延べ人数	15		
関連市民団体等名称	どんぐりネットワーク茅野	茅野市には子育て応援団が多く、また居場所等の施策が充実している。 しかし、大人の意識に差がある等、親育ちの施策に課題がある。	親育ちについては、「学ぶ」、「支える」、「つなぐ」、「ひとそだち」を総合的に推進していくことで、親が親となるための環境づくりや地域全体で子育てをする意識が芽生えてくると考えています。地域で子育てに関わる仕組みづくりを進めながら、実効性と実現性が高い取組を、どんぐりネットワーク茅野をはじめ市民のみなさんと一緒に検討し実施していきます。
開催回数	2		
参加延べ人数	32		
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」

3.各施策等における評価内容と改革改善(6つ目以降)

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
6	子ども・家庭への支援の充実	順調	「育ちあいちの」に多職種の有資格者を配置し、相談者のニーズを的確に把握し、こどもとその家庭、保育園や学校等を含めた総合的支援をチームを組み実施している。相談件数が約1.3倍に増加しているが、重大事案の未然防止、年齢と共に変化する問題を継続的に支援することができている。	問題・課題を整理するためにアセスメントシートを定期的に作成し、変化する問題・課題を把握し、適切な支援を実施していく。	問題・課題の整理を行うためのアセスメントシートの作成と支援方針を総合的に評価していく。 相談件数の増加に専門性を持って対応できる体制整備を行う。
7	保健・福祉事業の充実	おおむね順調	妊娠届時の面接を通じて、支援が必要な方について、地区担当保健師への連携を強化した。また、助産師が新規にスタッフとなったことで、妊産婦への支援が充実した。こども課と健康づくり推進課兼務の保健師が両方の事業に携わることができ、スムーズに連携がとれている。	育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合は、ほぼ横ばいであった。相談が気軽にできるよう、相談先を知っていたことや、相談しやすいよう、保健師等が、声掛けを行っていく必要がある。	・新たに、相談先がわかる「子育て応援プラン」を作成し、全員に配布説明。 ・育児相談会の案内を健康管理センターで保護者が自由に手に取ってもらえるよう改善。 ・転入者アンケートを作成し、保健師が保護者に連絡をとりやすくし、サービスの案内ができるようにした。
8	地域で支える子育て支援の充実	おおむね順調	国県からの補助金や加配教員の配置が見込まれないため、市内の各学校に茅野市型コミュニティスクールを構築し、事業に取り組んでいる。また、地区こども館の運営やどんぐりネットワーク茅野の取組を通じて、子育てに関わる仕組みづくりを行っている。	コミュニティスクールについては、今後、市内小中学校に置かれている「学校評議員」との関係をどのようにしていくかが課題である。	各小中学校で地域の特色を活かした活動をしていくためには、学校運営委員の報酬等の活動費が必要となってくる。地域と共にある学校づくりを目指すために、全小中学校に活動費を配分できるようにしたい。
9	居場所づくりの推進	おおむね順調	子どもの居場所だけでなく、親同士のつながりを作る場、利用者の地域行事への参加、子どもたちの自主性を育む場としての機能を担っている。学童クラブの大規模校(永明、宮川、玉川)の空き教室増設を確保した。	各施設において、利用者を増やすための様々な取組を行っているが、その取組を周知する必要がある。	どんぐりネットワーク茅野をはじめ市民のみなさんの意見も伺いながら、これまでの周知方法を見直していく。その中で、さまざまな機会を捉えての周知や情報発信の手段の工夫など、必要な人に必要な情報が届くようにコミュニティスクール等も活用しさらに取組を進めていく。
10	親育ちの推進	おおむね順調	一日保育士体験の実施及び親支援プログラム講座や各種講座の開催。一日保育士体験は、親の子育てを見直すきっかけとなり、保育に対する理解の向上につながっている。また、各種講座、子育て・教育等の相談を実施し、親の育児不安やストレスの解消に繋げている。	一日保育士体験への父親の参加が少ない。また、各種講座への参加者が減少傾向にある。	乳幼児健診などの機会を捉えて、講座への参加を促すと共に、内容のわかり易い広報等を行う。講座参加者が相互にアドバイスやサポートをし合う関係づくりができるような機会を提供する。
11	子育てを通じて学び・育ち合う環境づくりの推進	おおむね順調	各事業における参加者の立場は違うが、地域ぐるみで子どもが育つ環境を整備しているという考え方が醸成されていることは、アンケート結果から見て取れる。	実績値は過去5年間、軒並み目標値の6割強で推移している。目標達成のためには参加者数を増やすことを念頭に置き、事業を組み立てていく必要がある。	参加者を増やし事業の目標を達成するためには、まずPR活動の徹底を図っていく必要がある。その部分から参加団体や関係団体との協働により進めることで、より効果が高い周知効果が得られる(例:関係団体のブログにイベント情報掲載やラジオ番組出演、SNS利用等。コストかからない)。
12	夢のある子どもの育成	おおむね順調	こどもまつりや縄文フェスティバルへの参加、こども会議の運営、古本カフェで挙げた収益で本を寄付するなど、メンバーが考え、実践するという一定の効果が出ている。	メンバー以外の子どもの参加が非常に少ない結果となった。そのため、アンケートの回収率も低くなり、全体としての成果指標の目標未達成となった。	メンバーが各中学校に勧誘目的で訪問しているが、これは毎年、こども会議後に実施している。市内の中学生及び高校生の参加者を多くするために、勧誘活動を前倒してこども会議前に実施することで、こども会議のPRIになり、参加者が増えると考えられる。